

ウイルス分離は施行例全例から成功し、分離株は A/熊本, A/東京, B/神奈川で抑制されず, A/FM/1/47 の抗血清で抑制された。

HI 抗体価の成績は表 1 に示す通りであり, 30 例は H_1N_1 感染 (うち 1 例は不顕性), 3 例は H_1N_1 および H_3N_2 の混合感染, 2 例は H_3N_2 感染と診断された。

臨床症状は表 2 に示すごとく, 全例に発熱, 喀痰を伴う咳嗽があり, 全身倦怠感を訴えたものは 29 例中 14 例 48% であった。

発症 2~3 日目の心電図所見では, II, aV_F, V₅, V₆ のいずれかで $T/R \leq 0.1$ と T 波の平低化を認めるもの 7 例, II, III, aV_F または V₅, V₆ で ST の低下 $\geq 0.05mV$ を認めるもの 4 例, 上記の両所見を有するもの 1 例であり, 計 12 例 (41.4%) に ST-T 変化を認めた。症状回復後の心電図はいずれも正常化していた。

一方, 発症 2~3 日目の心エコー図において, 左室駆出率 $< 60\%$ の症例は 6 例 (20.7%) であり, 全例症状回復後の心エコー図では正常であった。

なお, CPK, LDH, GOT, GPT, 血清電解質は, いずれも正常であった。

3. 考 按

新しい A 型インフルエンザ “いわゆるソ連かぜ” に罹患した 29 例全例の病初期ならびに症状消失後約 1 週目の心電図および心エコー図を検討したところ, 発病初期には 41.4% に ST-T 異常を認め, 左室駆出率の低下したものを 20.7% に認めた。しかし, 症状消失 1 週後にはいずれの所見も正常に復しており, H_1N_1 による心電図, 心エコー図上の変化は一過性のものと考えられた。

主要症状のうち, 全身倦怠と心電図, 心エコー図の相関をみると, 全身倦怠を訴えた 14 例中 10 例 (71.4%) に心電図または心エコー図に上記の変化を認めている。また, 心電図に ST-T 変化を認めた 12 例では, そのうち 7 例 (58.3%) に全身倦怠があり, 一方, 心エコー図上左室駆出率 60% 未満例 9 例中 5 例 (83.3%) に全身倦怠を認めた。

Herpes Simplex 抗体価上昇を認めた心室性 期外収縮 short run 女児の一例

九大小児科 本 田 恵 砂 川 博 史
溝 口 康 弘

1970年11月15日生れの女児。

1978年10月20日頃より軽度の上気道感染症状があり, 2, 3 日で消失。同10月25日頃より息苦しいとの訴えあり, 同月30日某医を受診して不整脈を指摘され同年11月6日より12月9日まで当科に入院。

β -blocker (Inderal 2mg/kg·day) 無効のため1978年11月30日 Procainamide HCl 200 mg を点滴静注したところ, 静注開始 2 分後に洞調律に復した(図 1)。以後 Procainamide HCl 500 mg を経口投与したが, 12月16日より1979年1月4日まで家族が同薬の投与を無断で中断している。

この間の心電図経過は図 2 の通りであるが, 運動負荷 (single Master-load) 後には short run が長時間持続

する(図 3)。

1979年2月5日には図 4 の如く正常洞調律に回復しており ST-T に異常は認められない。また同日の心エコー図では左室駆出率, mV_{CF} ともに正常であった。

血清学的には, GOT, GPT, CPK, LDH, 血清電解質ともに正常範囲であり, Cox B₁, 3, 5, インフルエンザ A, B HI 抗体価は上昇せず, Herpes simplex HI 抗体価のみが, 1978年11月10日 128 倍, 同年11月24日 512 倍, 1979年2月5日 32 倍と有意の変動を示した。

Herpes simplex 感染による short run 多発とは断定できないが, 今後心電図の安定をまって心カテーテル法, 心血管造影法, 心筋生検を施行する予定である。

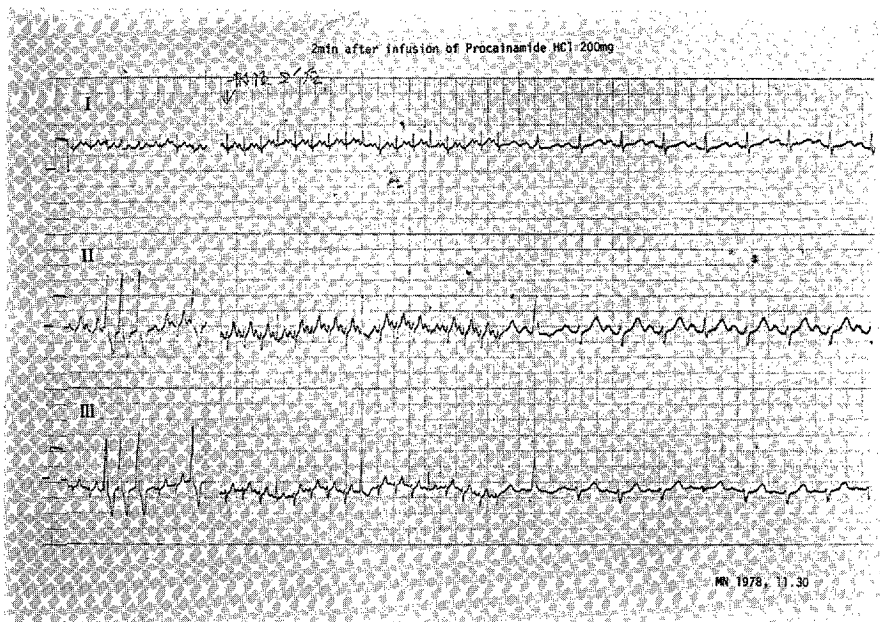


图 1

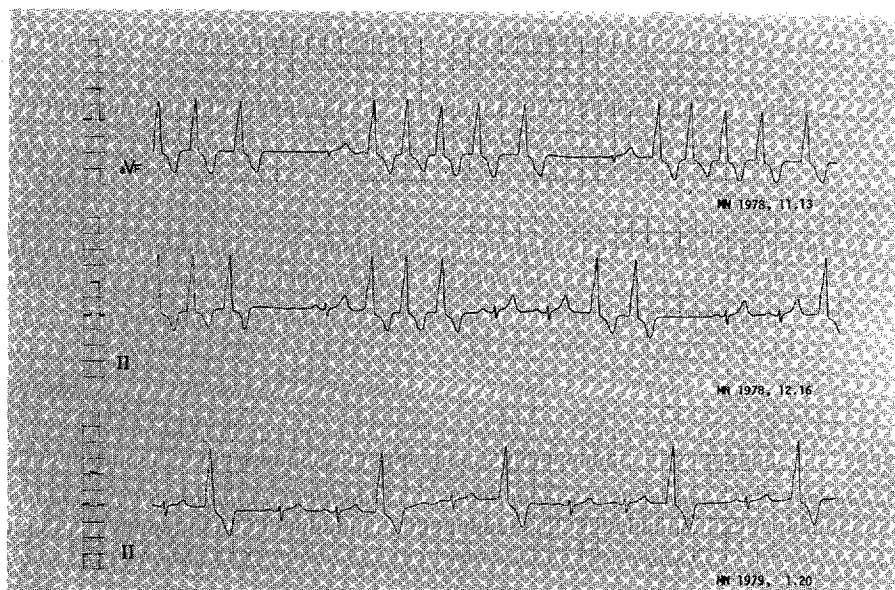


图 2

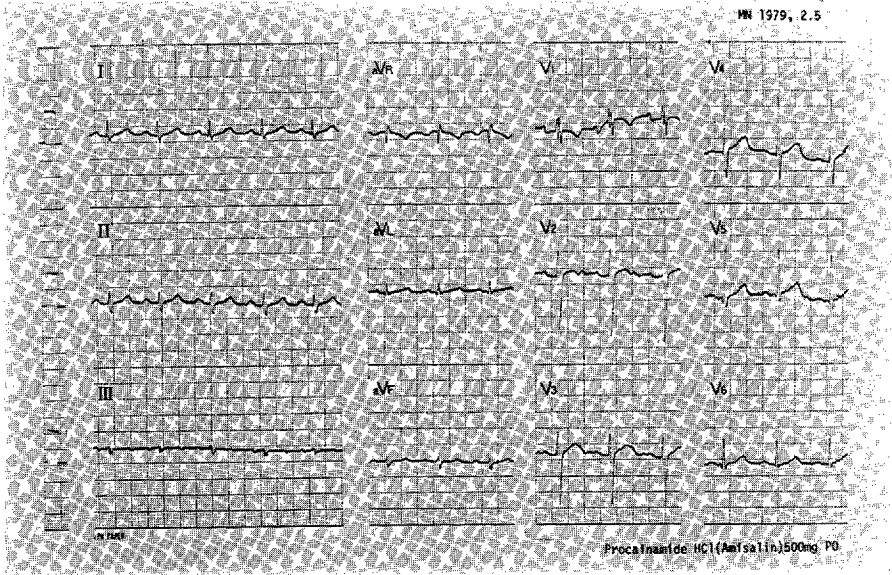


图 2

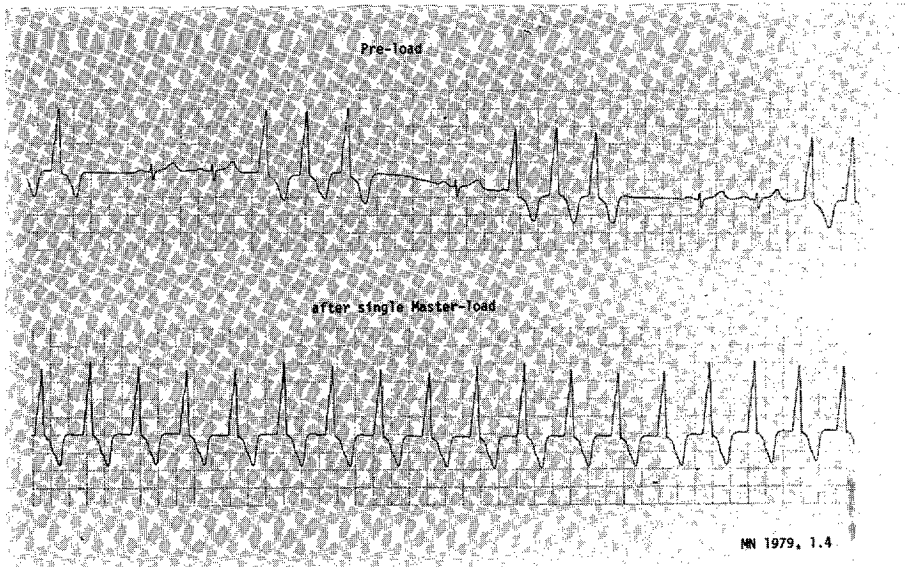
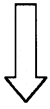
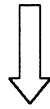


图 4



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1970年11月15日生れの女兒。

1978年10月20日頃より軽度の上気道感染症状があり2,3日で消失。同10月25日頃より息苦しいとの訴えあり,同月30日某医を受診して不整脈を指摘され同年11月6日より12月9日まで当科に入院。